

## 第2回 岐阜支部評議会の概要報告

開催日時	令和元年7月18日(木) 10:00~11:20
開催場所	濃飛ニッセイビル地下1階 会議室
出席評議員	梅津評議員(議長)、寺町評議員、山岡評議員、瀬古評議員、森川評議員、北川評議員、佐伯評議員
議題	(1) 平成30年度全国健康保険協会決算見込みについて【資料1】 (2) 岐阜支部の広報事業について【資料2】
議事概要	<p><b>議事1. 平成30年度全国健康保険協会決算見込みについて</b> 事務局より【資料1】に沿って説明を行った。</p> <p>【主な意見等】 (被保険者代表) ・準備金が積み上がることで、国庫補助に与える影響があるのか。 (事務局) ・過去には積み上がった準備金が枯渇した経緯もあり、すぐに国庫補助の減額には結びつかないのではと想像できる。ただし、保険料率を引き下げた場合には、国庫補助が減額される可能性は高くなると考えている。</p> <p><b>議事2. 岐阜支部の広報事業について</b> 事務局より【資料2】に沿って説明を行った。</p> <p>【主な意見等】 (事業主代表) ・市販薬があるのに処方薬として出されている薬の金額に関する新聞記事を目にした。このように報道がされると大きな問題であると自覚した。2025年問題も迫ってくる中、こうした問題を若い方にも自覚していただくための広報が必要であると感じた。 (事務局) ・今年5月に新たに高額薬剤が保険適用となり、今後も同様のケースが続く見通しであることから、協会けんぽ本部では、健康保険組合連合会と共同で提言を行った。内容としては、個人で負担しきれないリスクは確実にカバーしつつ、小さなリスクに対する保険給付の範囲等について検討すべきというものである。 (学識経験者) ・国がセルフメディケーションを推奨するものの、スイッチOTCについては医師の反対もあると聞くが、昔と比べるとどんどん加速していると感じる。こうした報道等に触れることによって皆で考えていかなければならない。</p> <p>(被保険者代表) ・理解度調査では健診受診率の認知率は高いものの、実際には岐阜支部の健診受診率は低い方だと思うが、ターゲットを絞った広報は実施しているのか。</p>

(事務局)

- ・岐阜支部では被扶養者の健診受診率が非常に低い。特に扶養家族をターゲットとして、今年度は広報と事業を兼ねてオプション健診を実施していく計画。

(被保険者代表)

- ・主婦層が見るようなタウン誌への広報を検討してみるのも良いかもしれない。

(事務局)

- ・ご意見として検討させていただく。主婦層をターゲットという意味では、スーパーマーケット等へのポスター掲示も考えているが、現時点では担当者に相談をしている状況である。

(被保険者代表)

- ・最近の若い方はテレビやパソコンよりも、スマートフォンで動画を見ていることが多い。自ら探して辿り着くものより、動画を見る時に自然と目に入ってくるような広報ツールが有効ではないか。また、地元プロサッカークラブ等と一緒に健康促進の活動を実施することを検討してみるのもいいと思う。

(学識経験者)

- ・一般の方には「協会けんぽ」という愛称と「全国健康保険協会」とがあまり結びつかないのではないか。スマートでないというか、古くさいというイメージがある。学生もピンとこないのでは。

(事業主代表)

- ・「協会けんぽ」を知らない人が本当に多いと感じている。

(被保険者)

- ・保険証には「協会けんぽ」の愛称を支部独自で載せることはできないのか。

(事務局)

- ・支部独自で保険証に愛称等を印字することはできない。

(事業主代表)

- ・健康保険委員にも「協会けんぽ」の愛称や取り組みを普及していく役割がある。今後さらなる委員活動の充実を図っていくべき。

(事業主代表)

- ・SNSの活用や、漫画の素材を使ったマグネットシート等、若い方を意識した広報も実施されているので、こういったものを組み合わせて引き続き行っていただければと思う。

(被保険者代表)

- ・理解度調査のサンプル数はどれくらいか。

(事務局)

- ・協会けんぽ全体で約 7,200 名の回答結果である。

(被保険者代表)

- ・協定自治体との協働事業が挙げられているが、協定締結自治体数はどれほどか。

(事務局)

- ・自治体レベルでは現在 42 市町村中 11 自治体と協定を締結している。

(被保険者代表)

- ・健康保険委員限定の広報誌にある、事務手続きのテクニックのような記事は事務担当者にとって有益な情報が載っている。こうした広報は是非続けていただきたい。

(学識経験者)

- ・ いろいろなメディアを活用されているが、なかなか効果検証が難しいのではないかと感じる。FMラジオの放送は上半期のみとされているが、今後のメディアの活用等、皆さんのご意見もお聞きしたい。

(被保険者代表)

- ・ FMラジオは昼休み時間帯の放送であるが、朝夕の通勤時間帯では予算に影響するのか。また、具体的にはどういった方をターゲットとしているのか。

(事務局)

- ・ 通勤時間帯は金額が上がるため昼間の帯番組としている。ただし帯番組で契約をした結果、4回ほど夕方の生放送枠をご提供いただいた。主なターゲットは主婦層ではあるが、不特定多数の方が聴くものでもあるため、放送内容はあまり対象を絞りすぎない内容としている。

(事業主代表)

- ・ ラジオも複数の局がある中で、いろいろな角度からアプローチしていくのも大切だと思う。

(事業主代表)

- ・ バスに乗車する方の中で、若者の多くはスマートフォンに目が向いてしまうので、デジタルサイネージ広告は、高齢者向けに寄せた内容とした方がより効果的だと思う。

特 記 事 項
---------

- |                       |
|-----------------------|
| ・ 次回開催は令和元年 10 月下旬の予定 |
|-----------------------|